



Cisco ISE コマンドライン インターフェイス



(注) この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナルリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザインターフェイスにハードコードされている言語、RFPのドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

この章では、Cisco ISE の設定および管理に使用できる Cisco Identity Services Engine (ISE) のコマンドライン インターフェイス (CLI) について説明します。

- [CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI 管理者アカウント \(4 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザ アカウント \(5 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限 \(6 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム \(7 ページ\)](#)

CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定

Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) では、EXEC モードでシステム レベルの設定、コンフィギュレーション モードでその他の設定作業 (一部は Cisco ISE 管理者ポータルから実行できません) を実行し、トラブルシューティングのための操作ログを生成できます。

Cisco ISE 管理者ポータルまたは CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアのパッチを適用し、トラブルシューティングのための操作ログを生成し、Cisco ISE アプリケーション データをバックアップできます。また、Cisco ISE CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアを起動および停止し、アプリケーション データをバックアップから復元し、アプリケーション ソフトウェアをアップグレードし、トラブルシューティングのためにすべてのシステム ログとアプリケーション ログを表示し、Cisco ISE デバイスをリロードまたはシャットダウンできます。

コマンド シNTAX、使用ガイドライン、例については、「EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド」、「EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド」、「コンフィギュレーション モードの Cisco ISE CLI コマンド」を参照してください。

ローカル システムを使用した Cisco ISE CLI へのアクセス

有線ローカルエリア ネットワーク (LAN) に接続せずに Cisco ISE をローカルに設定する必要がある場合は、ヌルモデム ケーブルを使用して、システムを Cisco ISE デバイスのコンソールポートに接続できます。シリアルコンソール コネクタ (ポート) は、コンソールポートに端末を接続することで、Cisco ISE CLI にローカルアクセス可能にします。端末は、ターミナルエミュレーション ソフトウェアまたは ASCII 端末を実行するシステムです。コンソールポート (EIA/TIA-232 非同期) で必要なのは、ヌルモデム ケーブルのみです。

- ターミナルエミュレーション ソフトウェアを実行するシステムをコンソールポートに接続するには、DB-9 メス型 - DB-9 メス型のヌルモデム ケーブルを使用します。
- ASCII 端末をコンソールポートに接続するには、片方が DB-9 メスでもう一方が DB-25 オスのストレートケーブルと、DB-25 メスから DB-25 メスへの変換アダプタを使用します。

コンソールポートのデフォルトパラメータは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビット、およびハードウェアフロー制御なしです。



(注) 接続の相手側が Cisco Switch の場合、スイッチポートを duplex auto、speed auto (デフォルト) に設定します。

ステップ 1 Cisco ISE デバイスのコンソールポートとシステムの COM ポートをヌルモデム ケーブルで接続します。

ステップ 2 Cisco ISE と通信するようにターミナルエミュレータを設定します。ターミナルエミュレータの接続では、9600 ボー、データビット 8、パリティなし、ストップビット 1 の設定を使用します。ハードウェアのフロー制御はなしです。

- ステップ3 ターミナル エミュレータが起動したら、Enter キーを押します。
- ステップ4 ユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
- ステップ5 パスワードを入力し、Enter キーを押します。

セキュア シェルによる Cisco ISE CLI へのアクセス

Cisco ISE はセットアップ ユーティリティにより、CLI 管理者を受け入れるように事前設定されています。(Windows XP 以降のバージョンを使用してシステムを介して有線ワイドエリア ネットワーク (WAN) に接続している) SSH クライアントを使用してログインするには、管理者としてログインします。

始める前に

Cisco ISE CLI にアクセスするには、SSH v2 をサポートするセキュア シェル (SSH) クライアントを使用します。

-
- ステップ1 任意の SSH クライアントを使用して SSH セッションを開始します。
 - ステップ2 Enter キーまたはスペースバーを押して接続します。
 - ステップ3 ホスト名、ユーザ名、ポート番号、および認証方式を入力します。たとえば、ホスト名「ise」またはリモートホストの IPv4/IPv6 IP アドレスを入力し、ユーザ名に「admin」、ポート番号に「22」を入力して、認証方式としてドロップダウンリストから [パスワード (Password)] を選択します。
 - ステップ4 [接続 (Connect)] をクリックするか、Enter キーを押します。
 - ステップ5 割り当てられた管理者パスワードを入力します。
 - ステップ6 (任意) プロファイル名を [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウに入力し、[プロファイルに追加 (Add to Profile)] をクリックします。
 - ステップ7 [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウで [閉じる (Close)] をクリックします。
-

Cisco ISE CLI 管理者アカウント

セットアップ中に、CLI 管理者アカウントを作成するユーザ名とパスワードを入力するように促されます。初期設定後に最初に再起動するときに、このアカウントを使用して Cisco ISE サーバにログインします。

CLI 管理者アカウントのクレデンシャルを常に保護し、このアカウントを使用して、Cisco ISE サーバへのアクセス権限を持つ追加管理者アカウントとユーザアカウントを明示的に作成し、管理する必要があります。

CLI 管理者はすべてのコマンドを使用して、Cisco ISE サーバで EXEC モードでのシステムレベルの設定（ルートへのアクセス）およびコンフィギュレーションモードでのその他の設定作業を実行することができます。管理者は、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアの開始と停止、Cisco ISE アプリケーション データのバックアップと復元、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアへのパッチとアップグレードの適用、すべてのシステム ログとアプリケーション ログの表示、Cisco ISE デバイスのリロードまたはシャットダウンを実行できます。

サブモードに関係なく、管理者アカウントのプロンプトの末尾にポンド記号 (#) が表示されます。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウント

Cisco ISE 管理者ポータルからアカウントを作成するユーザは、Cisco ISE CLI に自動的にログインできません。CLI 管理者アカウントを使用して、CLI にアクセスできるユーザアカウントを明示的に作成する必要があります。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの作成

CLI ユーザアカウントを作成するには、コンフィギュレーションモードで **username** コマンドを実行する必要があります。

ステップ 1 CLI 管理者アカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

ステップ 2 コンフィギュレーションモードを開始して、**username** コマンドを実行します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# username duke password plain Plain@123 role user email duke@cisco.com
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

ステップ 3 CLI ユーザ アカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限

ユーザアカウントには、次のコマンドを含む、限定された数のコマンドへのアクセス権があります。

- crypto
- exit
- nslookup
- ping
- ping6
- show cdp
- show clock
- show container
- show cpu
- show disks
- show icmp_status
- show interface
- show inventory
- show logins
- show memory
- show ntp
- show ports
- show process
- show terminal
- show timezone
- show udi
- show uptime
- show version
- ssh
- terminal
- traceroute

Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム

Cisco ISE サーバに接続し、次を使用して CLI にアクセスできます。

- Microsoft Windows XP または Vista を実行するシステム。
- Red Hat や Fedora などの Linux を実行するシステム。
- Mac OS X 10.4 以降の Apple コンピュータ。
- VT100 または ANSI 互換の端末デバイス。VT100 タイプ デバイスおよび ANSI デバイスでは、左矢印、右矢印、上矢印、下矢印、Delete および Backspace キーを含むカーソル制御キーおよびカーソル移動キーを使用できます。Cisco ISE CLI は、カーソル制御キーの使用を検出し、自動的に最適なデバイス文字を使用します。

すべての端末の完全なリストについては、`/usr/share/terminfo/*/*` の `terminfo` データベース（端末機能データベース）を参照してください。コンパイルされた `terminfo` ファイルは次の場所にある可能性があります

`/usr/lib/terminfo/v/vt100`、`/usr/share/terminfo/v/vt100`、`/home/.../.terminfo/v/vt100`、または `/etc/terminfo/v/vt100`。`terminfo` は、アプリケーションプログラムと通信する端末のすべてのモデルで利用可能な端末機能データベースです。これは、カーソルを新しい場所に移動する、画面の一部を消す、画面をスクロールする、モードを変更する、外観（色、明るさ、点滅、下線、反転表示など）を変更するといった操作を実行する場合に端末に送信するエスケープシーケンス（または制御文字）を提供します。

たとえば、ルートから `"locate vt100"` と入力すると、使用している端末に関する情報が表示されます。

Cisco ISE CLI には、次の有効な端末タイプからアクセスできます。

- 1178
- 2621
- 5051
- 6053
- 8510
- altos5
- amiga
- ansi
- apollo
- Apple_Terminal
- att5425

- ibm327x
- kaypro
- vt100